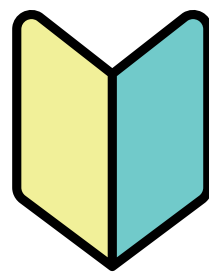


＼ 時間とゆとりをつくり出す /

保育所等における
はじめての ICT 活用

ハンドブック





はじめに

本ハンドブックは、厚生労働省による「令和4年度 子ども・子育て支援推進調査研究事業」の「保育分野における ICT の導入効果及び普及促進方策に関する調査研究」の一環で作成されました。

ICT※の導入は、保育者の業務負担の軽減等に効果があると期待されています。

これは、保育者の本来の職務である「保育」に力を注ぎやすい環境を作り、ひいては保育の質の確保・向上を目指す上でも重要と考えられます。

本ハンドブックでは、ICT 導入の目的・種類・効果等の他、導入のステップやつまづきやすいポイントとその対策もまとめております。ICT 導入を検討されている保育者および保育施設運営責任者の方にお手にとっていただき、ご活用いただければ幸いです。

※ ICT

ICT とは、Information and Communication Technology（情報通信技術）の頭文字をとって略したものです。

目次

第1章	保育 ICT 導入の前に	
	「ICT 活用」には不安がある…？	03
	保育分野における ICT ツール導入の目的	04
第2章	保育 ICT のはじめかた	
	保育 ICT 導入のステップ	05
	【START】保育 ICT 導入前の「土台づくり」	06
	【STEP01】導入するツールの決定	07
	【STEP02】導入の準備・環境整備	09
	【STEP03】保育 ICT ツールの導入	10
	【STEP04】導入後の振り返りと次のステップ	10
第3章	保育 ICT 活用事例紹介	
	保護者コミュニケーションが円滑になった事例	11
	請求関係の事務がカンタンになった事例	12
	保育・監査等の記録を効率化した事例	13
	一人ひとりの成長をより丁寧に見守る事例	14
	【コラム】市全体の DX 化へ（岩手県北上市）	15
	【応用編】データ連携でできること	16
第4章	保育 ICT 導入のポイント	
	つまずきポイントと解決法	17
	【参考】アンケート調査からみえること	19
	おわりに	21
	参考文献・作成協力	22

「ICT 活用」には不安がある…？

ICT の活用について「難しい」「今の業務を否定されるのでは」と感じる方も少なくないかもしれません。そこで、ICT との向き合い方について学識者からメッセージをいただきました。



大豆生田先生からのメッセージ

最近、保育の分野でも次第に ICT の活用が進んでいます。そうした変化に、戸惑っている方も中にはいらっしゃるかもしれません。



玉川大学 教授
大豆生田 啓友 先生

まず保育現場の皆さまに理解しておいていただきたいのは、ICT 導入は皆さまが今行っている業務を否定するものではないという点です。手書きの業務と ICT 化する業務を両立させることもできますので、保育者をサポートするツールとしてうまく活用していただきたいと思います。

また、ICT を導入すること自体を目的にするのではなく、まずは保育についての「なりたい姿」を明確にした上で、導入の目的を定めると良いでしょう。最初は不慣れに思うこともあるかもしれませんが、ICT を活用した日々の業務の進め方を工夫していくことで、より効果を実感できるようになっていきます。このハンドブックには、そのようなステップが具体的な事例とともに示されていますので、ぜひ参考にしてください。

ICT の導入が「働きやすい環境づくり」に役立ち、保育者が保護者と共に一人ひとりの子どもに向き合う一助となり、それらが保育の質の向上へとつながっていくことを願っています。

保育者に対して行ったアンケートでは、ICT 導入の様々な効果が確認されました。詳しくは P19-20 をご参照ください。

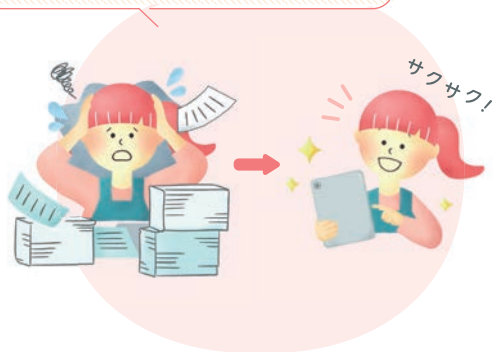
保育分野におけるICTツール導入の目的

保育分野におけるICTツール（以下「保育ICT」）の導入目的は、今行っている業務をただデジタル化することではありません。ここでは、保育ICTの導入目的や基本をお伝えします。

保育者の働きやすさ、保護者との良好な関係構築のため

Point

働きやすい環境づくり



業務フローの見直しなど、働き方改革とセットで保育ICTを導入すると「働きやすさ」につながる

Point

保護者コミュニケーション



連絡帳や写真などを通して子どもの成長を保護者と共有し合う

業務フローの見直し等については、P6をご参照ください。

保育の質の向上のため

保育ICTを導入する際は、「保育の質の向上」を常に見据えることが大切です。ICTを活用しつつ保育の質の向上のために時間を使いましょう。

Point
01せんせい、
みてみて！

子どもと向き合う時間を増やす

Point
02公園までお散歩
したとき…

ノンコンタクトタイム※に
保育を振り返る

Point
03園でそんな
ことが！園での成長
を共有

保護者と一緒に子どもの
成長を見守る

※ ノンコンタクトタイム

ノンコンタクトタイムとは、保育者が休憩時間とは別に園児から離れて業務を行う時間のことをいいます。

ノンコンタクトタイムに保育者が行う業務として、連絡帳の記入、保育計画や日誌の作成、会議や保護者対応などが挙げられます。

保育ICT導入のステップ

保育ICTの導入は、以下のステップに沿って行いましょう。

ICTの導入のみをゴールとするのではなく、園の方針や課題に合わせて活用することで、働きやすい環境づくりや保育の質の向上につなげることが大切です。

ぜひ、園の皆さままでお取り組みください。

各ステップで行う具体的な内容については、次ページ以降をご参照ください。

目安期間



保育ICT導入前の「土台づくり」

ICTの導入効果を高めるために、
まずは「土台づくり」から始める



1
カ
月
程
度



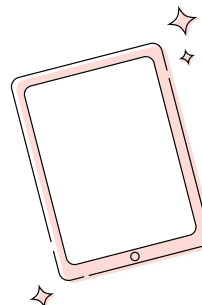
導入するツールの決定

園の目的に合わせてツールを選ぶ



導入の準備・環境整備

Wi-Fi・タブレットの準備や、
予算確保・体制整備をする



保育ICTツールの導入

保育者や保護者へ導入についての説明を行った上で、
保育ICTツールを導入する

※書類のデジタル化や使い慣れるまでに3～4カ月程度かかる



3
～
4
カ
月
程
度



導入後の振り返りと次のステップ

使い慣れてから少し経った後に、導入効果を振り返る。
そして、改めてICT等を用いた業務フローの見直しを行い、
必要に応じて新たなツールを導入しICT導入の効果を高める

3
～
4
カ
月
程
度

スタート 保育 ICT 導入前の「土台づくり」

保育 ICT の導入前に「土台づくり」をしましょう。まずは、保育について「なりたい姿」の整理と共有を行い、次に、保育 ICT 導入前にできる業務改善を可能な範囲で行います。この「土台づくり」により、園に合った形で ICT を導入することができ、効果を高めることができます。

保育について「なりたい姿」の整理と共有

ICT 導入を具体的に検討する前に、保育について「なりたい姿」を言葉にして、園内でその考え方を共有しておくことをおすすめします。

なりたい姿を
共有！

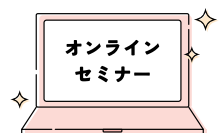


ICT 導入前の業務の見直し・改善

普段の業務を振り返り、ICT 導入前に業務フローや分担を可能な範囲で見直しておく効果的です。導入前の業務改善のはじめの一歩としては、例えば、業務を「保育者しかできないこと」「保育者以外でもできること」に分け、後者については保育補助者をお願いすること等が挙げられます。まずはこの点について試してみたいはいかがでしょうか。

何から始めたら良いかわからない場合は・・・

民間事業者など外部の機関が開催する研修会（オンラインを含む）などの機会を利用してみましょう。



〈業務改善にしっかり取り組みたい方へ〉

別途、業務改善のために一定の期間を確保することをおすすめします。



<https://www.mhlw.go.jp/content/000763301.pdf>



<https://www.mhlw.go.jp/content/000928266.pdf>

厚生労働省「保育分野の業務負担軽減・業務の再構築のためのガイドライン」（令和3年3月）「保育分野の業務負担軽減・業務の再構築のためのガイドライン 業務改善実践に向けた事例集」（令和4年3月）をご参照ください。

STEP 01 導入するツールの決定

保育者間で話し合いをしながら ICT 導入の目的意識を共有しつつ、どのタイプに最も近いかを考えてみましょう。目的は必ずしも1つに絞る必要はありません。

\あなたの園は /

なに タイプ？

タイプ別におすすめの
ICT ツールがわかる！

A

タイプ
type

保護者コミュニケーションを
円滑化したい

P11へ

Communication



● 改善したいこと

- ・ 欠席連絡 / 確認や、保護者への一斉連絡等に関する電話連絡を減らしたい
- ・ 連絡帳に写真を添付し、保護者に保育中の様子をより知ってほしい

● おすすめの ICT ツール

一斉配信

連絡帳

ドキュメンテーション※

写真撮影・販売

Billing docs

請求関係の事務を
カンタンにしたい

P12へ

B

タイプ
type

● 改善したいこと

- ・ 登降園の記録を基に、自動的に延長保育の計算をしたい
- ・ 保護者への請求書発行を楽に行いたい
- ・ 朝の忙しい時間に登園管理を簡単に行いたい

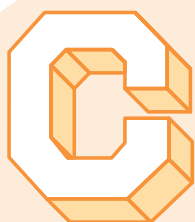
● おすすめの ICT ツール

登降園管理

請求管理

キャッシュレス化





タイプ
type

保育・監査等の記録を
効率化したい

P13へ



● 改善したいこと

- ・ 違う書類に何度も同じことを書かないようにしたい
- ・ 記録等の手書きから解放されたい
- ・ 保育記録等を、見たい時に見たい人が確認できるようにしたい

● おすすめの ICT ツール

帳票管理

ドキュメンテーション※

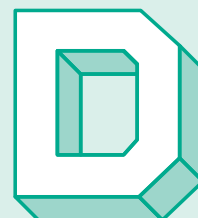
午睡チェック

体温計

Paperwork

一人ひとりの成長をより
丁寧に見守りたい

P14へ



タイプ
type

Watching over

● 改善したいこと

- ・ ノンコンタクトタイムに保育の振り返りをしたい
- ・ 一人ひとりの発達や成長を継続的に写真で記録したい
- ・ ICT をより活用するための研修等を受けて、保育に活かしたい

● おすすめの ICT ツール

ドキュメンテーション※

連絡帳

帳票管理

保育者同士の連絡機能



※ ドキュメンテーション

ドキュメンテーションとは、子どもの活動を写真などの視覚的な資料を用いて可視化することを指します。活動全体の流れや活動時の子どもの様子を共有しやすい等の利点があり、「子どもの姿を振り返り、対話し、味わい、保育の質を高める道具」とされています。

STEP 02 導入の準備・環境整備

保育 ICT 利用環境の確認・整備

- タブレット等の端末は、最低でもクラスに1台とする

より効果的に活用する場合は保育者1人に1台あると良い



- Wi-Fiを整備する

園内のどこにいても保育 ICT ツールを活用できるため、有線よりも Wi-Fi（無線）の方が便利になる

➡ パソコン・タブレットがない場合：ICT 化と併せて活用できる補助金について確認する

つまずき 01 資金的な不安がある P17 へ

予算の確保

- 事業者料金を確認する

事業者へ、下記についてかかる料金を確認する

- ・ Wi-Fi 等インターネット環境
- ・ タブレット等の端末
- ・ 保育 ICT サービスの月額料金等

月にかかる
費用を確認！



- 予算を確保する

自園負担分と補助金分を整理しておく

➡ 補助金・問い合わせ先について確認する

つまずき 01 資金的な不安がある つまずき 02 誰に聞けば良いかわからない P17 へ

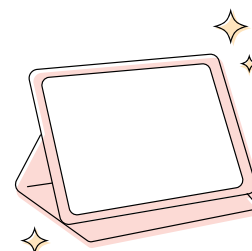
体制を整える／導入前の研修受講

- ICT 担当者を園に1人置く

- ・ 「わからないことがあれば聞ける人」の役割を果たす
- ・ パソコンやタブレットの操作に慣れている人が良い
- ・ 担当者が不明な事項についての問い合わせ先を確認しておく（事業者の問い合わせ窓口等）

➡ 問い合わせ先について確認する

つまずき 02 誰に聞けば良いかわからない P17 へ



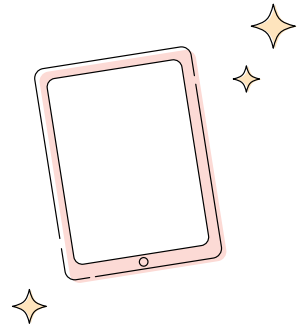
- ICT 導入前の必要な準備・計画・設定等に関する研修を受ける

民間事業者等が実施するオンライン研修等を適宜受ける

STEP 03 保育ICTツールの導入

保育ICTツールの導入、保育者・保護者への説明

- 保育ICTシステムを導入する
3～4カ月かけて、書類のデジタル化を行う
- ICT導入について施設内関係者へ説明を行う
 - ・実際に使う画面を投影し、園長やICT担当者が一つひとつ手順を説明する場を設けた園では、保育者より「とても分かりやすかった」との声あり
 - ・事業者による説明が可能な場合もある
- 保護者に対しても導入について説明を行い、適宜同意を得る



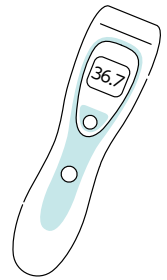
STEP 04 導入後の振り返りと次のステップ

課題の共有や効果についての総括

- 導入効果について振り返りを行う
 - ・保育ICTツールの操作に慣れてきたら、導入効果の総括のために振り返りの時間を持つ
 - ・ICT導入に関する保護者の反応を聞いておく
 - ・他クラスの活用方法も参考にすると良い

振り返りのポイント

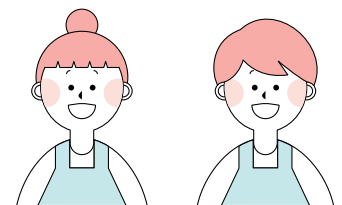
導入時に見込んでいた効果は出ているか ➡ 出ていない場合は、効果を出すための工夫は可能か検討する
 保育の質の向上につながっているか ➡ 特になければ、保育の質の向上のために何ができるかを検討する



より効果を高めるための、次のステップ

- データ連携により効果を高める
記録や保護者とのやりとり、請求等で横断的にデータを使うことができ、活用の幅が広がる ※詳しくはPI6をご参照ください
- 新しいツールの導入へ
 - ・振り返りにより新たな領域のICT化が良いとの結論となった場合に、新しいツールの導入を検討する
 - ・民間事業者等が実施する、効果的な活用や課題を乗り越えるためのオンライン研修を必要に応じて受ける

子どもともっと
向き合える！



Aタイプ

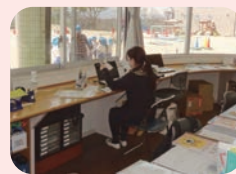
保護者コミュニケーションが円滑になった事例

認定こども園美山こども園 兵庫県川西市

- 活用した ICT ツール 一斉配信 写真撮影・販売

● 導入効果

アプリの一斉配信で保護者に連絡することで、印刷物の準備を含めた手間が大きく削減されています。また、紙で連絡していたときはできなかった「既読確認」ができ、「渡した・渡していない」という認識の違いが解消されました。



写真販売のシステムを導入したことで、スマートフォンなどで写真を選び注文することができる上に、園側も金銭の管理をしなくてもよくなったため負担が軽減されました。

うれしの認定こども園 岐阜県岐南町

- 活用した ICT ツール 一斉配信 ドキュメンテーション

● 導入効果

保護者にとっても便利であることが実感しやすい ICT から導入をすすめました。保護者への連絡を配信するようになってからは、いつでも見たいときに見ることができると好評です。

ドキュメンテーションを保護者にも共有することで、保育者と保護者との会話の中でその内容に触れることも増えました。



share!



認定こども園さくら 栃木県栃木市

- 活用した ICT ツール 保育日誌

● 導入効果

保育日誌のスクリーンショットを保護者と共有することで、保護者との会話の質が変わってきました。それまでは、「今日も元気でした」などの簡単な会話だったところ、添付されている写真を見ながら、「このときに、こういうリアクションがあって、この後こういう行動につながった」など、前後の様子を含めて伝えることができ、保護者との信頼関係を生むような会話が増えています。



Communication

各事例の詳細を確認したい場合は、三菱 UFJ リサーチ & コンサルティング「保育分野における ICT の導入効果及び普及促進方策に関する調査研究報告書」（令和 5 年 3 月）をご参照ください。

タイプ
type

請求関係の事務がカンタンになった事例

正休ののはな保育園 滋賀県大津市

● 活用した ICT ツール

登降園管理

● 導入効果

導入前は、子どもと保護者が登園する度にインターフォンを押してもらい、それに職員が応答しており、大きな負担になっていました。現在は、保護者が IC カードをかざして門扉が開き、それが登降園管理のシステムともひもづいているため、業務負担が大きく軽減されています。



easy!

サクサク!

Billing docs



cashless!



妻田フェルマータ小規模保育園 神奈川県厚木市

● 活用した ICT ツール

登降園管理

● 導入効果

登園状況をリアルタイムで確認することができるため、登園時間までに欠席連絡がないと、すぐに保護者に連絡することができます。導入前は、1階の事務所から2階の保育室まで出席状況を確認しに行っていましたが、タブレットで確認できるようになったのは、とても便利であり、クラスと事務所で同時確認ができ、確認漏れがなくなります。



延長保育についても登降園管理を使うことで、正確に時間が管理でき、請求がしやすくなります。



タイプ
type

保育・監査等の記録を効率化した事例

認定こども園さくら 栃木県栃木市

● 活用した ICT ツール

保育日誌

保育計画



● 導入効果

保育日誌を ICT 化して1年ほど経ち、連絡帳の持ち帰り業務が減ったことを実感できるようになりました。保育日誌のスクリーンショットを保護者に共有したり指導計画にも活用したりすることで、保育者が同じことを何度も書く作業は、ずいぶん軽減されています。業務の効率化が進み、ノンコンタクトタイムを休憩にあてることも増えてきました。

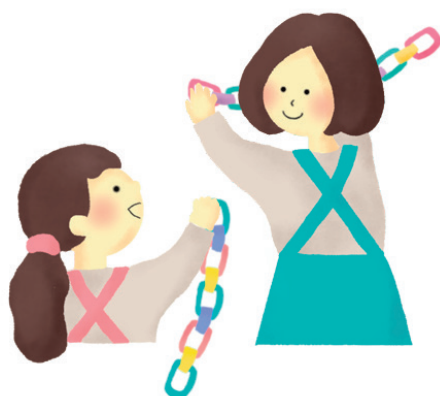
(document)



Paperwork



comfortable!



足立このみ保育園 東京都足立区

● 活用した ICT ツール

児童票

指導計画

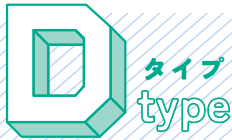
保育日誌

保育要録



● 導入効果

ICT 化によって職員の書類作成や確認の効率化につながり、記録作業および確認における業務軽減に大きく貢献しています。同じシステムを区立園が導入したので、今後、監査の効率化や監査内容の明確化、および書類準備効率化につながり、運用状況の確認も円滑に実施されることが期待されます。



一人ひとりの成長をより丁寧に見守る事例

Watching over



認定向山こども園 宮城県仙台市

● 活用した ICT ツール 保育日誌

● 導入効果

保育日誌を ICT 化することでデータの蓄積がしやすくなりました。個々の子どもの記録数の差やどの領域の活動に目を向けやすいかを自動でグラフ化できるため、保育者自身の視点のくせが可視化され、振り返りに役立てることができます。各園児の日誌のデータは、保護者面談の資料としても活用しています。

小規模保育園おおきな木 静岡県静岡市

● 活用した ICT ツール 保育者同士の連絡機能 オンライン研修

● 導入効果

ICT は、思いや方針を実現する「ツール」に過ぎないと考えています。導入前には、研修を受けつつ「改めて、どのような保育をしたいのか」という点についてあらかじめ園内で認識を合わせました。これが、適切な ICT 活用につながっています。

保育者間のビジネスチャットツールを活用して、「子どもたちの発見が「ほんとに面白いなあ」と感じた、あなたのエピソードを教えてください。」という質問に回答してもらうアンケートを実施しました。保育の振り返りの時間がなかなか取れなかったためアンケート機能を活用しましたが、集まった保育の視点がどれも面白く、結果として保育者同士の会話も広がりました。

そのほかにも、保育者がオンライン研修に積極的に参加し、保育の質の向上に取り組んでいます。



公郷こども園 神奈川県横須賀市

● 活用した ICT ツール 写真撮影・販売

● 導入効果

保育者は、担当しているクラス以外の写真もシステム上で見ることができます。コロナ禍でクラス同士の交流が減っている中で、他のクラスの保育の様子を見ることができ、保育者からも好評です。



Column

保育現場とともに進める ICT 推進を機に、 市全体の DX 化へ（岩手県北上市）



● 活用した ICT ツール

登降園管理

連絡帳

一斉配信

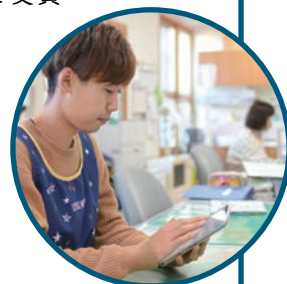
● 取り組みの概要

- ・ 公立保育園 6 か所とこども療育センター（児童発達支援施設）において、令和 4 年より ICT ツールを順次導入
- ・ 取り組みが評価され、「いわてデジタルトランスフォーメーション大賞 2022」を受賞

● 活用ポイント

POINT① ICT 化をきっかけとした意識変革

アプリで配信するおたよりに子ども達の写真を添付していますが、積極的に保育活動を写真で記録する流れが現場でも生まれています。業務負担の軽減についても、保護者からの欠席連絡や情報管理の負担が軽減されるといった効果が表れていますが、一番の変化は、現場で「この業務を改善できるのではないか」という意識が醸成されたことです。保育 ICT 化をきっかけに、さらなる業務改善や保育の質の向上にもつなげていきたいと考えています。



POINT② 現場の声を重視

まずは「市担当者の顔を覚えてもらうこと」を心がけ、導入検討時から全公立園を訪問し、現場の園長や保育者の問題意識を聞き取りました。また、各園に導入に関する説明を丁寧に行ったり、質問にはチャットツールも活用して対応したりと、現場の声を大切にしています。こうした現場に寄り添う姿勢が「一体感」を醸成し、先生方も前向きに受け入れることができたようです。



POINT③ 市全体の DX 施策に保育 ICT を位置づけ

当市で保育 ICT 導入を先頭に立って推進しているのは、民間から任用された「DX 推進リーダー」（市全体の DX を推進する役割）です。保育所で ICT 化が進めば、子育て世代にとってそれが「当たり前」になり、その後の学校教育など他分野の DX 化も進むことを期待しています。



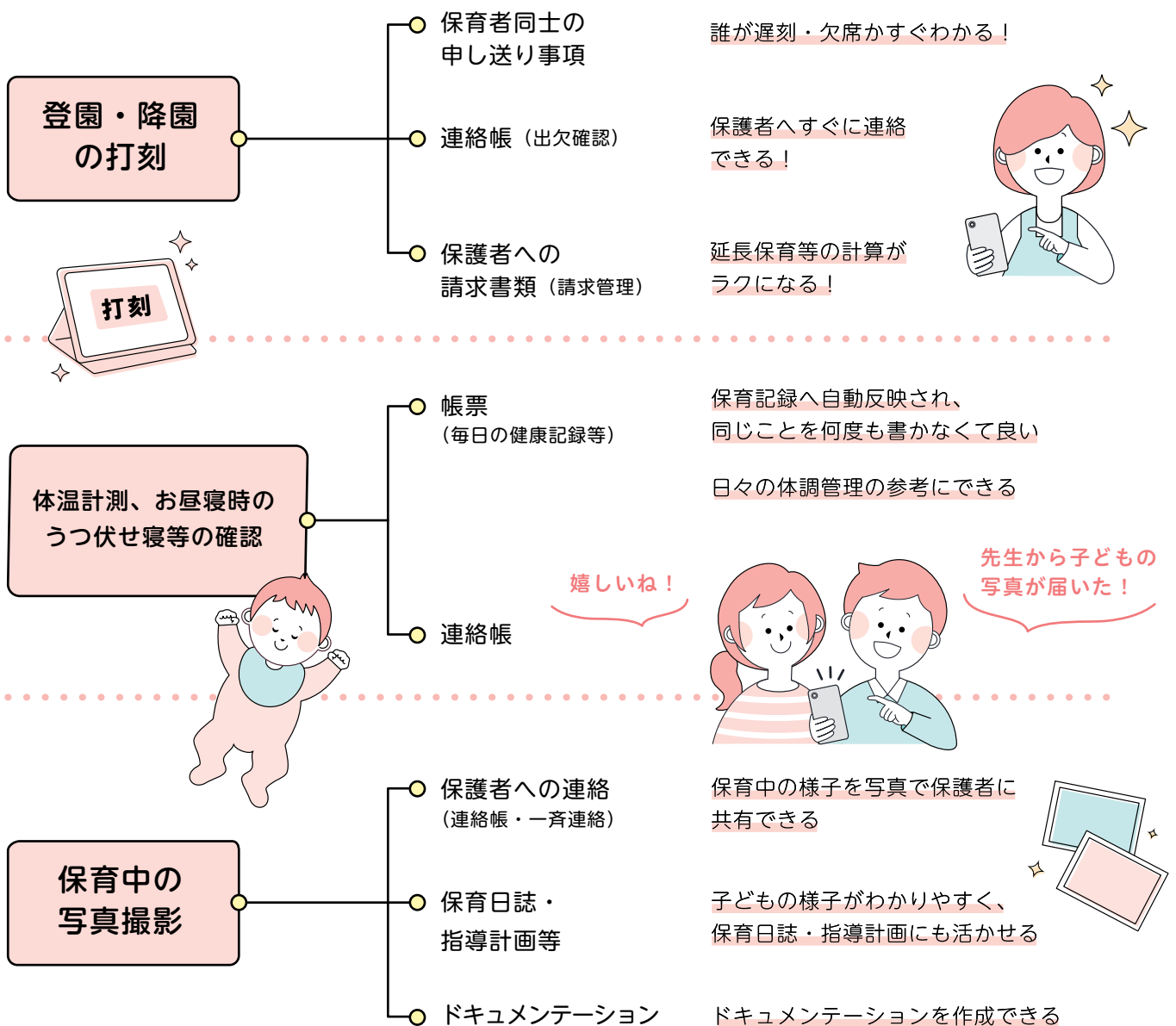
応用編 データ連携でできること

記録や保護者とのやりとり、請求等のデータを複数の ICT 間で連携させることで、業務の効率化が図れます。また、保育に関するデータを連携することで保育の振り返りがしやすくなるなど、保育の質の向上が期待できます。ICT の導入や業務の見直しにあたっては、データ連携の視点からも検討してみましょう。

保育中の様々な情報を横断的に使うことができ、活用の幅も広がります。

データ連携のイメージ例

データ連携をすることで、保育中の様々な情報がつながります。※



※事業者により、データ連携に対応していないこともあります

つまずきポイントと解決法

保育現場の皆さまよりうかがった「保育 ICT の導入の際につまずきやすい点」について、解決法をご提案します。お困りの際に、ぜひご参照ください。

资金的な
不安がある

つまずき
01

導入のための資金的な支援を活用する

未導入の園については、国による補助金（下記）が活用できる可能性があります。施設が所在する自治体の窓口へ以下の補助金が活用可能か、確認してみましょう。

- 保育所等における ICT 化推進等事業
- 保育環境改善等事業（午睡センサー等が対象）
- 保育補助者雇上強化事業

解決!

自治体や事業者へ問い合わせをする

補助金については自治体へ、具体的なサービス内容等についてはサービスの提供事業者へ問い合わせをしましょう。

問い合わせ先

- 施設が所在する自治体（保育施設運営関連について所掌する部署）
- ICT サービス提供事業者（一般的には事業者のサポート窓口があります）
- 保育商社（園に対し保育用品等を販売する会社）

誰に聞けば
良いか
わからない

つまずき
02

導入に不安…
何からすればいいか
わからない

つまずき
03

オンライン研修等を受け、 導入の目的等を明確に持つ

民間事業者等が実施するオンライン研修を導入前・中・後に受け、園の事情に合った導入をしましょう。

オンライン研修の受講（導入前・中・後）

- （前）保育方針の確認・業務改善に関する優先順位や実施事項の決定
- （中）ICT 実践前の必要な準備・計画・設定等
- （後）効果的な活用や課題を乗り越える研修

解決!

決裁者の
理解を
得られない

つまずき
04

解決!

導入のメリットを説明する

ICT 導入には資金的な支援（つまずき 01 参照）を活用できる可能性があることを伝えた上で、ICT 導入が園が抱える課題解決に貢献する点について説明することも一案です。

ICT 導入効果（例）

- 書類作成・電話等の負担を軽減でき、ペーパーレス化により経費節減にもつながること
- 保育の質の向上に貢献すること
 - ・子どもと接する時間の増加
 - ・保育の振り返り時間の確保
 - ・より丁寧な一人ひとりの成長見守り等
- 保護者とのコミュニケーションも円滑になること

使いやすく、保育の質の向上にも貢献することを説明する

つまずき
05

現場の保育者の
理解を
得られない

「今の仕事が否定されるのでは」「操作が難しそう」と心配される方が多いようです。導入の目的と内容についてオンライン研修を受けたり（つまずき 03 参照）、責任者等から丁寧に説明する場を設けたりしてはいかがでしょうか。また、以下についても説明すると良いと思われます。

- 現在の業務の否定ではないこと（全てを ICT 化する必要はありません）
- 使い方は難しくなく、やがて慣れる人が多いこと
- 疑問点があればすぐに聞ける人（窓口）がいること
- 保育の質の向上面でも効果的になり得ること
（子どもと接する時間の増加、保育の振り返り時間の確保、より丁寧な一人ひとりの成長見守り等）

解決!

参考 アンケート調査からみえること

令和4年度 子ども・子育て支援推進調査研究事業「保育分野における ICT の導入効果及び普及促進方策に関する調査研究」では、保育所等で働く保育者（施設長等含む）を対象に、保育 ICT に関するアンケート調査を実施しました。

ここでは ICT 活用の効果や、そうした効果を実感できるようにするための工夫等について、調査結果をご紹介します。

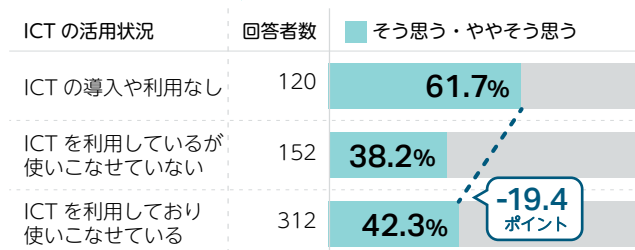
アンケートデータ① ICT 活用による業務負担の軽減

保育 ICT の活用と業務負担への影響をみると、ICT の導入や利用をしていない保育者に比べて、ICT を使いこなしている保育者は、日頃の保育において業務の負担感が小さく、残業も少ない様子がうかがえます。

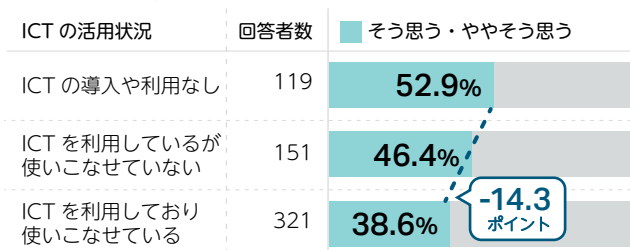
また、書類作成等を集中的に行う時間や、保育について振り返る時間が確保できている割合が高いなど、時間の使い方にも違いが表れているようです。

ICT を利用しているが使いこなせていないという方は、必ずしも業務負担の軽減につながっていない様子もみてとれます。導入当初などは、一時的に負荷がかかる時期もあると考えられます。保育者が ICT を抵抗なく使うことができるように、職場全体での工夫が大切といえるでしょう。

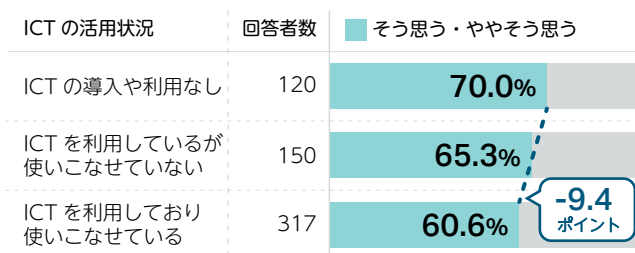
手書きで作成する書類の負荷が大きい



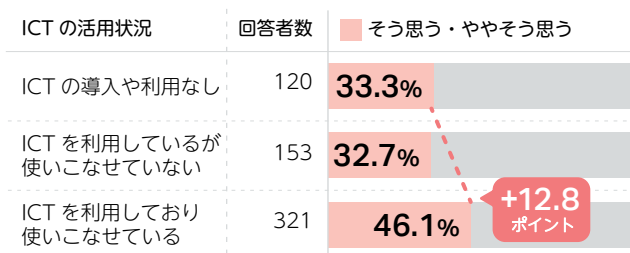
残業が多い



資料作成などの業務を集中的に行う時間がとれていない



勤務時間内に自分の保育について振り返ることができる



※表示している割合は、「手書きで作成する書類の負荷が大きい」（上段左の図の場合）などについて「そう思う」「ややそう思う」と回答した者の割合

※「ICT を利用しており、使いこなせている」は「自身は主な ICT を使いこなせていると思うか」という問いに対して、「そう思う」「ややそう思う」と回答した者。「ICT を利用しているが、使いこなせていない」は同設問に対して、「あまりそう思わない」「そう思わない」と回答した者。P20 の図も同様

※正規・常勤の保育者（施設長・園長、副施設長・副園長、教頭を除く）を集計対象とする。P20 の図も同様

アンケートデータ② ICT 活用が進むように実施すると良いこと

ICT を使いこなせているという保育者の園では、ICT の推進担当者の設置や導入時・入職時の説明会が開催されていることのほかに、次のような工夫がされていることがうかがえます。

- ICT を活用できるように業務の見直しを行っている
- ICT を活用することの目的や意義について職員間で認識合わせを行っている
- 困ったときに ICT のサービス提供事業者と相談ができる

個々の保育者の力量に任せるのではなく、園全体で ICT をどう活用するかという認識合わせや、業務の見直しを推進することで、より ICT を使いやすい職場につながると考えられます。

ICT を使いこなせている保育者が働く園で実施されていること

ICT 活用時の状況	ICT を利用しており、使いこなせている	ICT を利用しているが、使いこなせていない
職場では主な ICT が活用できるように業務の見直しが行われた／行われている	53.0%	34.6%
ICT 等を活用することの目的や意義について職員間の認識合わせをした／している	47.7%	34.6%
困ったときに ICT 等のサービス提供事業者と相談できる	44.5%	34.6%
ICT 等の導入や活用を推進する担当職員がいる	41.7%	27.5%
ICT 等の導入時や入職時には ICT 等に関する説明会や研修が実施されている	33.6%	26.1%

回答者数 = 321

回答者数 = 153

※表示している割合は、「職場では主な ICT が活用できるように業務の見直しが行われた／行われている」などについて「そう思う」「ややそう思う」と回答した者の割合

アンケートデータ③ ICT のメリットの実感

ICT を上手に使えている保育者では、やはり ICT のメリットが強く実感されています。使い始めた時期はまだ不慣れで ICT を利用するメリットが実感しづらいかもしれませんが、業務改善と合わせて職場で工夫することで、次第に ICT リテラシーが向上し、その効果を実感することができるようになるでしょう。

ICT の使いこなしと ICT のメリットの実感の関係

ICT を使いこなせていると思うか (ICT 利用者)	回答者数	自身は主な ICT を使うことのメリットを実感しているか
ICT を利用しており使いこなせている	320	86.3%
ICT を利用しているが使いこなせていない	149	40.9%

アンケートの詳細は、三菱 UFJ リサーチ & コンサルティング「保育分野における ICT の導入効果及び普及促進方策に関する調査研究報告書」（令和 5 年 3 月）をご参照ください。

おわりに



このハンドブックをお読みいただき、「保育 ICT の導入はそんなに難しいことではないんだ」「国や自治体からの資金的な支援もあるんだ」と少しでも安心いただければ大変嬉しく思います。

ICT と聞くと、業務が自動化されてあたたかみがなくなるのではないかと感じられる方もいらっしゃると思いますが、例えば、写真の活用により、より活き活きとした子どもの様子を保護者と共有したり、保育の振り返り・計画に活かしたりすることも可能です。また、保育者の皆さまの時間と心のゆとりを作ることを助ける存在でもあります。

ぜひ、この機会に一度園の先生方と導入について検討してみてください。

今後、益々 ICT は活用されていくと思われます。一方で、子どもの成長を見守ることは、人でなければできないことも多くあり、それは今後も変わらないのではないのでしょうか。

保育 ICT を活用することにより、「人しかできない、一人ひとりに寄り添うこと」をより手厚く、大事にしていく。このように保育 ICT が、子ども達の成長を見守るとても大切なお仕事をされている保育者の皆さまの一助となれば、大変幸いです。

「保育分野における ICT の導入効果及び普及促進方策に関する調査研究」

〈有識者会議 委員名簿〉

座長	大豆生田 啓友	玉川大学 教育学部 教授
委員	伊藤 唯道	社会福祉法人全国社会福祉協議会 全国保育協議会 副会長 (社会福祉法人順正寺福祉会 順正寺こども園 園長)
	井上 真理子	洗足こども短期大学 幼児教育保育科 教授
	岩田 恵子	玉川大学 教育学部 教授
	坂田 哲人	大妻女子大学 家政学部 専任講師
	新保 雄希	社会福祉法人日本保育協会 理事 (社会福祉法人泉の台保育園 泉の台幼稚園 園長)
	田澤 里喜	玉川大学 教育学部 教授
	樋口 剛	公益社団法人全国私立保育連盟 事業部長 (社会福祉法人モンチ優愛会 菩提寺優愛保育園モンチ 園長)

※氏名は敬称略・五十音順。所属・肩書は 令和 5 年 3 月 31 日現在

〈ハンドブック作成協力先〉

厚生労働省 子ども家庭局 保育課
公益社団法人全国私立保育連盟
社会福祉法人全国社会福祉協議会 全国保育協議会
社会福祉法人日本保育協会
一般社団法人幼児教育保育用品協会
ユニファ株式会社

〈保育 ICT 導入に関するお問い合わせ先（参考）〉

補助金：各自治体窓口（保育施設運営関連について所掌する部署）
保育 ICT サービスについて：ICT サービス提供事業者（一般的には事業者のサポート窓口があります）
保育商社（園に対し保育用品等を販売する会社）

〈参考文献〉

厚生労働省「保育分野の業務負担軽減・業務の再構築のためのガイドライン」（令和 3 年 3 月）
厚生労働省「保育分野の業務負担軽減・業務の再構築のためのガイドライン 業務改善実践に向けた事例集」（令和 4 年 3 月）
令和 2 年度 子ども・子育て支援推進調査研究事業「ロボット・AI・ICT 等を活用した保育士の業務負担軽減・業務の再構築に関する調査研究」（令和 3 年 3 月）



本ハンドブックは、厚生労働省「令和4年度 子ども・子育て支援推進調査研究事業
(保育分野におけるICTの導入効果及び普及促進方策に関する調査研究)」の
一環で作成されています。

発行元：三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社
作成協力企業：ユニファ株式会社

令和5年3月